



株式会社島津製作所(東証プライム市場：証券コード7701)

2025年3月期 通期決算説明会

代表取締役社長 CEO 山本靖則 | 2025年5月13日

※本会議の内容に関しては、現時点の予測に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、これらは全てリスク並びに不確実性を伴っております。実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

ハイライト



通期業績 増収減益

- ・売上高は5期連続で過去最高。営業利益は成長投資、人件費が増加し減益
- ・セグメント別では計測・産業・航空が過去最高を更新。
- ・【売上高】 5,390億円(前期比+5%)
- ・【営業利益】 717億円(前期比▲1%)

4Q(1-3月) 増収増益

- ・売上高は5期連続で過去最高。営業利益は額・率とも第4四半期で過去最高
- ・【売上高】 1,548億円(前期比+6%)
- ・【営業利益】 247億円(前期比+12%)
- ・【営業利益率】 15.9% (対前期+0.9pt)

2026年3月期 業績予想

- ・円高と関税影響（世界経済悪化・コスト増）を織り込んだワーストシナリオを想定
- ・【売上高】 5,150億円(前期比▲4%) : 動きのある市場と製品に傾注
- ・【営業利益】 580億円(前期比▲19%) : 価値訴求と経費抑制に取り組む
- ・新製品を10機種以上発売し、新たな価値を提供することで目標超過を目指す

皆様、こんにちは。

本日は当社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

これより、先期の状況と結果、今期の見通し、そして今年で当社が150周年を迎えることも踏まえ、今後の取り組みについてご説明いたします。
どうぞよろしくお願いいたします。

まず、先期のハイライトです。

先期は増収減益となりました。

売上高は5期連続で過去最高となる5,390億円（前期比5%増）でしたが、人件費や成長投資の増加により営業利益は717億円（前期比1%減）となりました。

第4四半期では増収増益となり、売上高1,548億円（前期比6%増）、営業利益247億円（前期比12%増）と、共に過去最高となりました。

2026年3月期は状況が改善する兆しも見えましたが、アメリカの関税問題や円高の進行懸念が浮上しました。それらを織り込み、ワーストシナリオを想定した業績予想を行っています。2026年3月期の見通しは、売上高5,150億円（前期比4%減）、営業利益580億円（前期比19%減）を見込んでいます。
今年は業績に寄与する新製品を10機種以上発売し、新たな価値を提供して目標達成を目指します。

01 決算概要

連結 / 業績



	単位：億円	通期		前期比		
		FY2023	FY2024	増減額	増減率	
業績	売上高	5,119	5,390	+272	+5%	(除中国：+9%)
	営業利益	728	717	▲10	▲1%	
	営業利益率	14.2%	13.3%	▲0.9pt		
	経常利益	769	720	▲49	▲6%	為替影響による 営業外損益 ▲38億円
	親会社株主に帰属する当期純利益	570	538	▲33	▲6%	
	ROE	12.5%	10.9%	▲1.6pt		
	ROIC	11.0%	10.0%	▲1.0pt		
為替	平均為替レート：米ドル(円)	144.66	152.63	+7.97	+6%	
	ユーロ(円)	156.85	163.78	+6.93	+4%	
	研究開発費	215	289	+74		
	設備投資額	225	229	+5		
	減価償却費	186	199	+13		

為替影響額 (売上高、営業利益は平均為替レートで、営業外損益は期末レートで計上)

売上高：+146億円 営業利益：+58億円

経常利益・純利益：

営業外損益 ▲38億円

FY2023：為替差益+24億円（期末レート：FY22期末・1ドル134円→FY23期末・151円）
FY2024：為替差損▲15億円（期末レート：FY23期末・1ドル151円→FY24期末・150円）

次に、連結業績の概要です。

売上高は5,390億円（前年比5%増）。

中国市場の回復が遅れていますが、中国以外では9%増加しました。

営業利益は717億円（1%減）で、営業利益率も13.3%と昨年より0.9ポイント悪化しました。

経常利益は720億円、当期純利益は538億円となり、為替影響により昨年より減少しました。

また、研究開発投資は289億円、設備投資は229億円に増加しています。

連結 / 営業利益増減要因

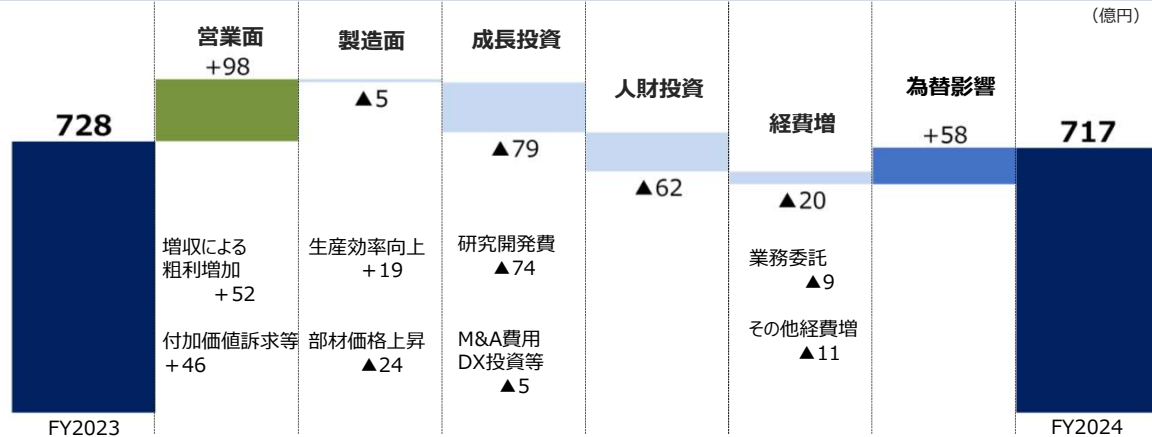


【営業利益】 717億円(前期比▲1%)

【営業利益率】 13.3% (対前期▲0.9pt)

■ 営業面	: 増収や付加価値訴求により増加	+ 98億円
■ 製造面	: 生産効率向上の増加分より部材価格上昇が大きく、全体で減少	▲ 5億円
■ 成長投資	: 研究開発費を74億円、M&A費用やDX投資を5億円増やした	▲ 79億円
■ 人財投資	: 教育費用増・人員増・賃上げなどにより増加	▲ 62億円

(億円)



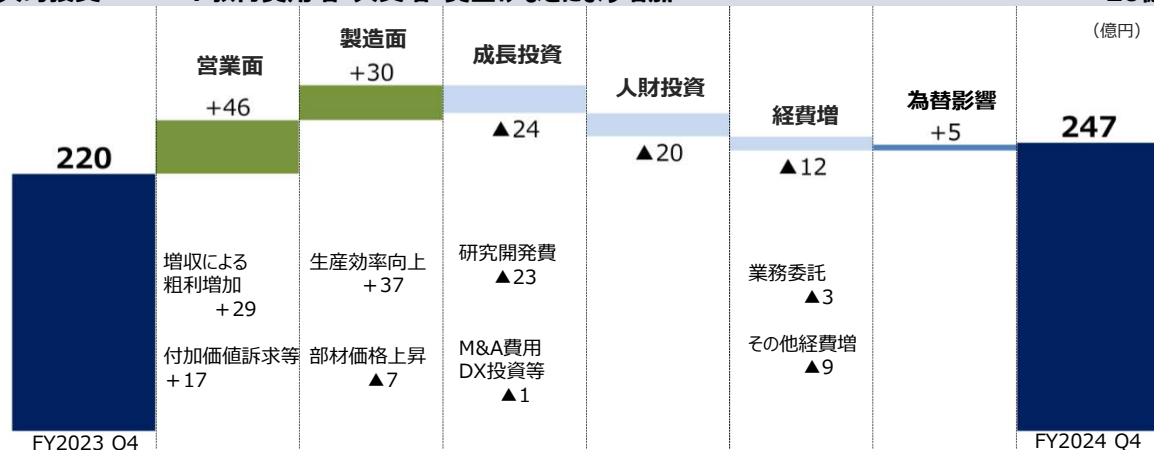
営業利益の増減要因としては、増収による粗利増加や付加価値訴求による価格アップ、新製品の寄与で98億円増加しました。
一方で、部材価格の上昇により生産面で5億円減少し、成長投資や人件費増加も利益を圧迫しました。
最終的に、為替影響のプラス58億円等もあり、717億円で着地しました。

連結 / 営業利益増減要因（1-3月）



【営業利益】 **247億円(前期比+12%)** 【営業利益率】 **15.9% (対前期+0.9pt)** **第4四半期で過去最高**

■ 営業面	: 増収や付加価値訴求により増加	+46億円
■ 製造面	: 生産効率向上が部材価格上昇を上回り、全体で増加	+30億円
■ 成長投資	: 研究開発費を23億円、M&A費用やDX投資なども増やした	▲24億円
■ 人的投資	: 教育費用増・人員増・賃上げなどにより増加	▲20億円



SHIMADZU

* 記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期通期決算説明会

6

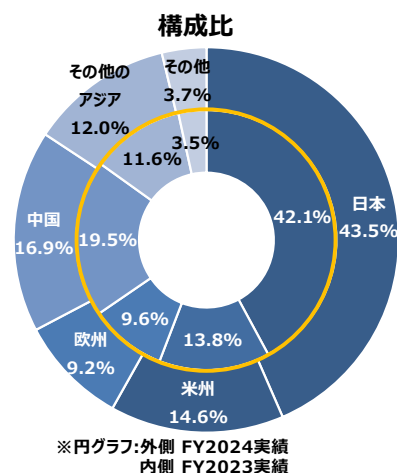
1-3月期では、営業利益は247億円（前年比12%増）となり、特に生産効率向上や新製品の寄与が大きく影響しました。
人的投資や研究開発投資も進め、今後の成長に備えています。

連結 / 地域別売上高



- 売上高 : 中国を除く主要地域で増収。日本、米州、その他のアジア(インド)が牽引。中国の構成比2.6pt減
- 日本 : 重点機種(液体クロマトグラフ、質量分析システム、ガスクロマトグラフ)、航空、TMPが増加
- 海外 : 米州・インドで液体クロマトグラフ、質量分析システムが増。海外売上高比率は56.5%対前期1.4pt減

単位 億円	売上高				構成比		
	FY2023	FY2024	増減額	増減率 前期比	FY2023	FY2024	前期比 増減
日本	2,155	2,345	+190	+9%	42.1%	43.5%	+1.4pt
海外	2,963	3,044	+81	+3%	57.9%	56.5%	▲1.4pt
米州	704	785	+81	+12%	13.8%	14.6%	+0.8pt
欧州	489	495	+6	+1%	9.6%	9.2%	▲0.4pt
中国	998	913	▲85	▲9%	19.5%	16.9%	▲2.6pt
その他のアジア	593	649	+56	+9%	11.6%	12.0%	+0.5pt
その他	177	200	+23	+13%	3.5%	3.7%	+0.3pt

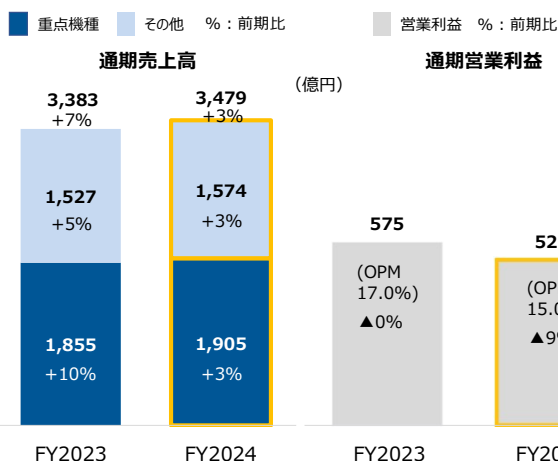


地域別では、中国が唯一前年比9%減となり、85億円の売上減でしたが、日本、米州、その他アジアが好調で、全体の業績拡大に貢献しました。
日本では重点機種や航空、ターボ分子ポンプが増加し、海外ではアメリカやインド向け製品が中国の減少分をカバーしました。

計測機器 / 売上高・営業利益

150
YEARS
ANNIVERSARY

- 増収減益 : 売上高3,479億円(対前期+97億円+3%)、営業利益521億円(同▲54億円▲9%)
- 売上高 : 中国の減収を他の地域での成長でカバーして、**過去最高**を更新
- 営業利益 : 減益要因は、**研究開発費45億円**、**人への投資33億円増**などの投資増
- 営業利益率 : 15.0%(対前期▲2.0pt)。4Qは、増収と価値訴求などで**18.2%**(対前期+0.8pt)に向上



重点機種 売上高1,905億円

- ・ 中国影響を受け前期比+3%にとどまる※中国を除けば**+7%の伸び**
- ・ 米国・インドなどの医薬市場でLC、欧州臨床市場でMSが増加
- ・ PFAS需要は各地域で増加
- ・ 中国は、年後半、政府支援策によりMSなどの案件増加

其他 売上高1,574億円

- ・ 水素や電池材料開発に試験機が好調

リカーリング 売上高 1,333億円 (前期比+9%)

- ・ リカーリング売上高比率 **38% (対前期+2pt)**
- ・ M&Aなどによる消耗品増に加えて、米国Zef社連結効果でメンテナンスも増加

SHIMADZU

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期通期決算説明会

8

セグメント別にみると、計測機器は増収減益でした。

売上高は3,479億円（3%増）、営業利益は521億円（9%減）でした。

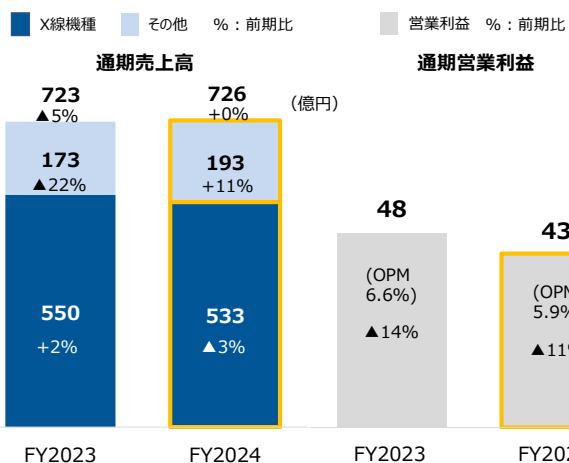
減益の主な要因は研究開発や人への投資増です。

リカーリング売上高は前期比9%増となり、安定収益の基盤が拡大しています。

医用機器 / 売上高・営業利益



- 増収減益：売上高726億円(対前期+3億円+0%)、営業利益43億円(同▲5億円▲11%)
- 売上高：日本・中国・欧州では市況回復遅れにより減少、北米でX線機種、インドで血管撮影システムが増加
- 営業利益：減益要因は、研究開発費11億円増などの投資増



X線機種

売上高 533億円

- ・ 一般撮影、X線TV：北米では新製品効果で増加も、日本、中国の市況の回復遅れで減少
- ・ 血管撮影システム：東南アジア・インドで低被ばく・高画質が評価されて増加

その他

売上高 193億円

- ・ 頭部と乳房の検査が可能なPETシステムや放射線治療支援システムが日本で増加

リカーリング

売上高 271億円(前期比+4%)

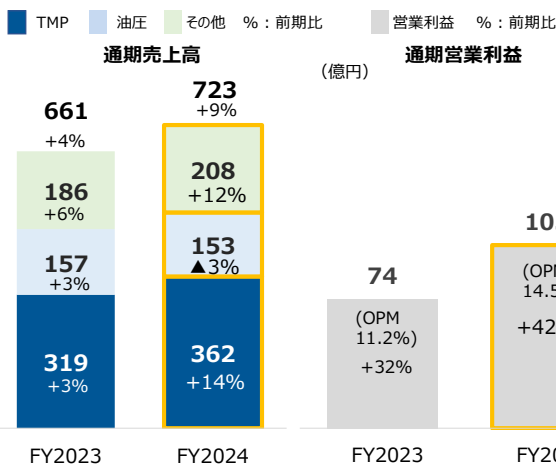
- ・ リカーリング売上高比率 37% (対前期+1pt)
- ・ 米国CIS社連結効果もあり部品・サービスとも順調に増加
- ・ 東南アジア・インドでサービス契約増加策展開

医用機器も増収減益でした。
 売上高はほぼ横ばい、営業利益は研究開発投資増により減少しましたが、
 リカーリングの比率が高まっています。
 特に北米や東南アジア・インドでサービス契約の拡大が成果を上げています。

産業機器 / 売上高・営業利益



- 増収増益：売上高723億円(対前期+62億円+9%)、営業利益105億円(同+31億円+42%) **過去最高**
- 売上高：TMP(対前期+44億円+14%)、その他事業(同+23億円+12%)が牽引して増収
- 営業利益：増収効果に加え、粗利率改善により大幅増益



TMP 売上高 362億円

- ・ 日本・北米・その他アジアで半導体製造装置向けが大きく増加
- ・ 半導体製造装置向けサービスが増加

TMPリカーリング 売上高 72億円(前期比+42%)

- ・ TMPリカーリング売上高比率 20%(対前期+4pt)

油圧 売上高 153億円

- ・ 輸送機・小型建機向けの市況が弱含みで推移

その他 売上高 208億円

- ・ 車載用セラミック製造向け工業炉が、引き続き増加



Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期通期決算説明会

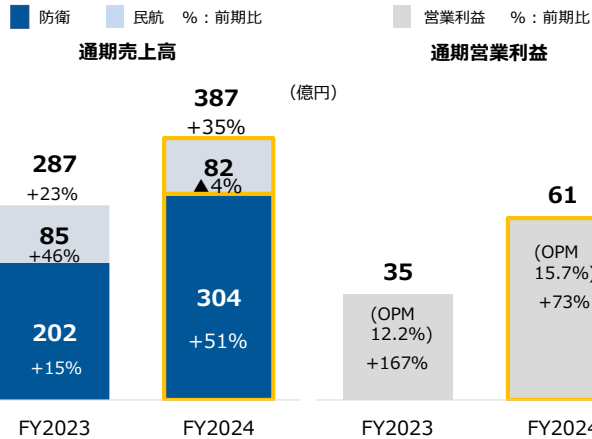
10

産業機器は増収増益で、売上高・営業利益ともに過去最高となりました。
主力のターボ分子ポンプは、日本や北米、アジアで好調です。
リカーリングも順調に拡大しています。
油圧機器は市況低迷の影響で売上高は微減となりました。

航空機器 / 売上高・営業利益



- 増収増益：売上高387億円(対前期+99億円+35%)、営業利益61億円(同+26億円+73%) **過去最高**
- 売上高：防衛市場向け大幅増(対前期+102億円+51%)、民間航空機市場向け減(同▲3億円▲4%)
- 営業利益：増収効果に加え、粗利率改善により大幅増益



防衛 売上高 304億円

- ・ 政府の防衛力強化方針により需要が拡大

民航 売上高 82億円

- ・ 前年増加した補用部品の反動で減少



※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を「産業機器」へ移行。
FY2024、FY2023の数値、ならびにFY2024/FY2023前期比を変更後のセグメント区分に組み替え。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期通期決算説明会

11

航空機器も増収大幅増益となり、防衛関連の受注増が寄与しました。
民間航空機については一部減少しましたが、市況としては回復傾向が続いており、
今期も売上拡大を見込んでいます。

02 2025年度通期業績予想

2025年度通期業績予想に与える米国の関税政策の影響



- 前提 (**ワーストケース**) : 90日間10%の相互関税、**90日経過後は追加関税発動** (日本24%、中国145%)
- 主な影響は①世界経済悪化による売上減少 (間接的)、②米国輸入部品のコスト増 (直接的)
- 影響額 (①+②) : 売上高 ▲250億円
営業利益 ▲180億円 (減収に伴う減益 ▲150億円+コスト増 ▲30億円)

	主な影響	想定影響額
①	関税政策による世界経済悪化に伴う売上減 (間接的)	売上高 ▲250億円 営業利益 ▲150億円 計測 : グローバルで市況悪化による設備投資意欲減退 医用 : 北米で市況悪化による設備投資意欲減 産業 : 半導体の最終需要の変化から半導体メーカ、半導体製造装置メーカが影響を受ける 航空 : 免税措置により影響は限定的。米国顧客の中国向け民間航空機売上は減速
②	米国輸入部品のコスト増 (直接的)	営業利益 ▲30億円 計測と医用で「日本⇒米国」が大きく影響を受ける。
	合計	売上高 ▲250億円 営業利益 ▲180億円

25年度通期業績予想です。

米国の関税政策の影響として、90日間10%の相互関税、その後追加関税が発動され、日本は24%、中国は145%等の高関税となることを見込んだワーストシナリオを想定しています。

これにより、売上高は約250億円、営業利益は約180億円の影響が予測されます。

2025年度通期業績予想（関税率10%、猶予期間後は24%の影響含む）



- 円高影響と米国の関税影響（関税率10%、猶予期間後は関税率24%を適用）を織り込むワーストケース
- 売上高 5,150億円（対前期▲240億円）為替▲260億円、関税影響 ▲250億円、実質売上増+270億円
- 営業利益 580億円（対前期▲137億円）為替▲70億円、関税影響 ▲180億円、実質利益増 +113億円

売上高	5,150 億円	対前期	▲240 億円	▲ 4 %
営業利益	580 億円	対前期	▲137 億円	▲19 %
経常利益	580 億円	対前期	▲140 億円	▲19 %
当期純利益	450 億円	対前期	▲ 88 億円	▲16 %

通期為替レート

米ドル：140円
ユーロ：155円

研究開発費

対前期

295 億円 +6 億円

設備投資

対前期

250 億円 +21 億円

減価償却

対前期

200 億円 +1 億円

関税影響に加えて、為替が円高に振れることも想定し、売上高に対して、為替影響で260億円、関税影響で250億円のマイナス要因となります。
事業努力による増収計画で270億円の押し上げ、全体として売上高5,150億円、営業利益580億円と予想しています。
研究開発投資、設備投資も増加予定です。

2025年度通期セグメント別業績予想 (関税率10%、猶予期間後24%の影響を見込む)



・業績に貢献する新製品を10機種以上発売し、新たな価値を提供することで目標超過を目指す

- 計測：投資が進む市場での拡大、新製品投入による付加価値訴求で影響を最小限に抑える
- 医用：新製品によるX線機種と血管撮影システムを展開、保守契約拡大により成長を目指す
- 産業：半導体向けTMPの拡販とアフターサービス強化で成長を目指す
- 航空：好調な需要を背景に高い売上を維持、利益は防衛案件影響により減少を見込む

単位: 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2024	FY2025 予想	前期比		FY2024	FY2025 予想	前期比		FY2024	FY2025 予想	前期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	3,479	3,250	▲ 229	▲7%	521	425	▲ 96	▲18%	15.0%	13.1%	▲1.9pt
医用機器	726	730	+4	+1%	43	50	+7	+17%	5.9%	6.8%	+1.0pt
産業機器	723	730	+7	+1%	105	100	▲ 5	▲4%	14.5%	13.7%	▲0.8pt
航空機器	387	385	▲ 2	▲0%	61	35	▲ 26	▲42%	15.7%	9.1%	▲6.6pt
その他	76	55	▲21	▲27%	6	8	+2	+27%	6.4%	10.0%	+3.6pt
調整額	-	-	-	-	▲18	▲38	▲20	-	-	-	-
合計	5,390	5,150	▲ 240	▲4%	717	580	▲ 137	▲19%	13.3%	11.3%	▲2.0pt

ワーストシナリオにおけるセグメント別業績予想は、計測3,250億円（229億円減）、営業利益425億円（96億円減）、医用機器は730億円（4億円増）、営業利益50億円（7億円増）、産業機械730億円（7億円増）、営業利益100億円（5億円減）、航空機器は385億円（2億円減）、営業利益も減少見込みです。

計測機器では業績に貢献する新製品を10機種以上投入し、付加価値を高めて受注拡大を目指すとともに、インドやアメリカ等、投資が進む市場での展開を強化します。

医用機器も新製品と保守契約の拡大を進めます。

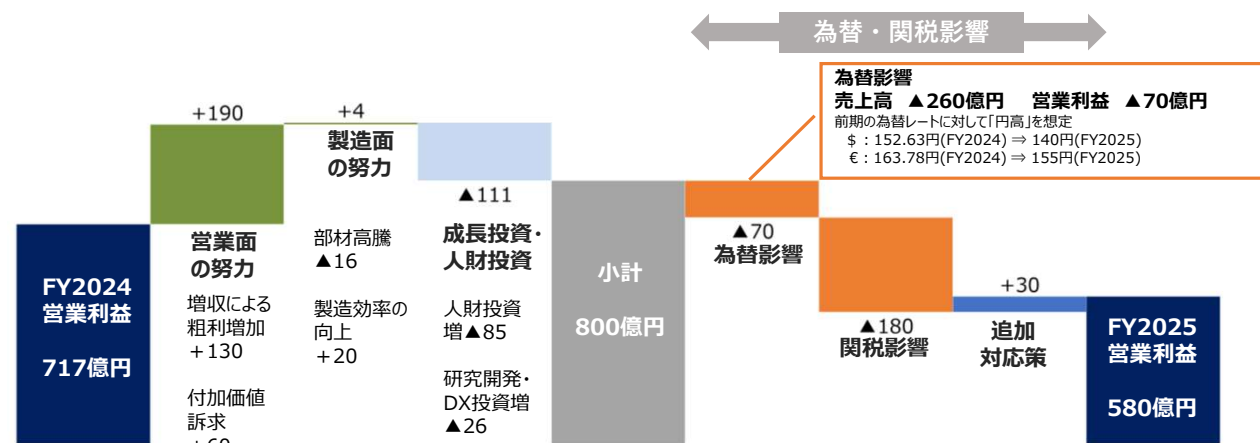
産業機器は半導体業界向けのターボ分子ポンプやサービス強化に注力、油圧製品は厳しい状況が続く見込みです。

航空機器は高い需要に支えられる一方、利益面では防衛案件関連の影響を見込んでいます。

2025年度通期営業利益予想 (関税率10%、猶予期間後は24%の影響を見込む)



- 為替変動および米国関税影響を織り込み580億円を予想
- 営業面では、増収に伴う増益と付加価値訴求により利益増の見込み
- 製造面では、製造効率向上が部材価格高騰を上回り、利益増の見込み
- 研究開発費・DX投資などの成長投資と人財投資が増加する見込み



営業利益予想の詳細です。

販売増や付加価値向上で190億円増加、製造効率化で4億円増加を見込む一方、人的・研究開発投資で111億円増が見込まれます。

為替・関税等の影響で最終的に営業利益は580億円と予想しています。

計測機器 / 営業利益回復の施策



- 投資が進む地域・市場での売上拡大
- リカーリング売上高の拡大

- 投入新製品での売上増
- 経費削減

主な施策/重点機種・成長市場での拡大

- 重点機種：製薬向けにLC、LCMS、化学向けにGCを拡大
- 成長市場：グリーン市場向けにGHG分析用GC、PFAS分析用LCMS、マテリアル市場向けに試験機を拡大
- 重点地域：欧米、アジア(インド)に加えて政府景気刺激策で需要が増加する中国で伸ばす

主な施策/収益性改善

- 新製品売上高拡大：LC、LCMS、GC、試験機などで、AI・ロボティクス活用や操作性向上を実現する新製品を複数投入
- リカーリング売上高の拡大：商材の増加、提案力強化による消耗品の増加
サービス体制の構築・強化による保守・メンテナンス・サービス増加
- 経費削減：広告宣伝費、旅費交通費などの管理可能経費を削減

計測機器の営業利益回復に向けては、成長市場での売上拡大、新製品による付加価値向上、リカーリング売上拡大、そして経費削減を図ります。
生産性向上やAI・DXの活用、欧州での試薬会社との提携、買収した米国のZef社によるサービス展開も強化します。

米国の関税政策への今後の対応策



- 営業面・製造面で関税影響の軽減策を策定
- 短期的に実施可能なものは速やかに実施。中長期的には、関税影響の最小限化を目指す

【米国市場への対応】

- 顧客の関税影響を補う高付加価値製品の拡販
- 投資の進む市場への注力



<短期>

- 関税影響分の価格転嫁を検討
- 低関税率の期間中に米国内の在庫を確保
- 米国工場での生産拡大

<中長期>

- 米国計測工場を活かした営業施策を展開
- グローバル製造体制見直し



Shimadzu USA Manufacturing, Inc.

【その他地域への対応】

- 顧客の関税影響を補う高付加価値製品の拡販



<短期>

- 中国政府の景気刺激策に日本ブランドを押し出した活動を展開
- 投資の進むインド市場向けに注力
- 中国から他地域への製造拠点移転をとらえて活動を展開
- 関税影響の濃淡を見極め、最適な営業活動を推進

<中長期>

- グローバル製造体制見直し
- 地産地消強化に向けた現地調達の推進



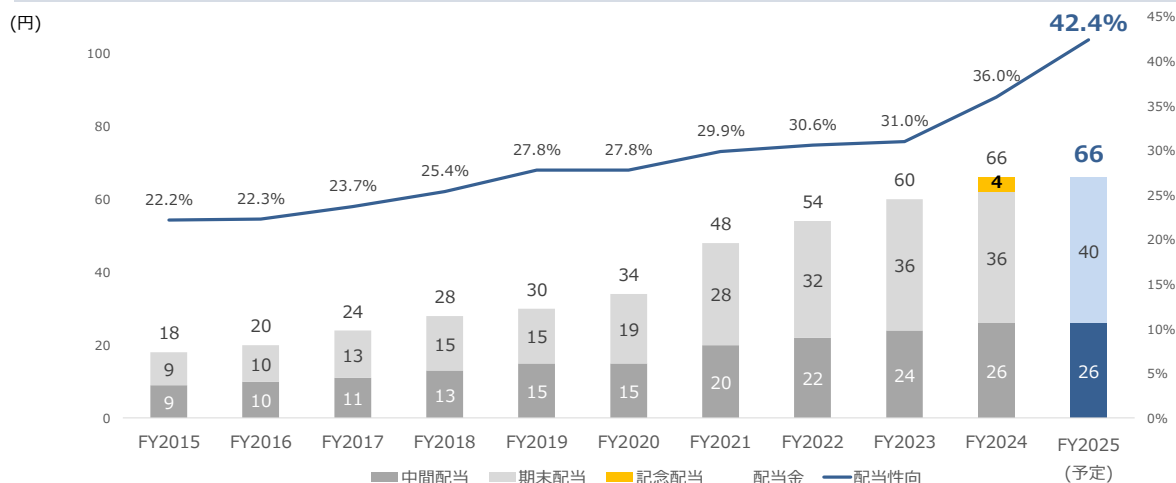
Shimadzu (Suzhou) Instruments Manufacturing, Co., Ltd.

関税政策への対応策としては、グローバルな製造体制やサプライチェーン再構築、高付加価値製品の拡販、価格転嫁や米国内在庫を確保する施策も進めてまいります。

株主還元



- 配当金 : FY2024 記念配当4円を実施。年間配当は期初想定比4円、前年比6円増配の66円
FY2025 1株当たり66円（中間26円、期末40円）を予定。配当性向42.4%に向上
- 自社株買い : FY2024中に計画通り250億円実施。580万株取得済み



株主還元については、当初予定の年間62円に加え、150周年記念配当として4円を追加し、1株当たり66円の配当（配当性向36%）を予定しています。
来期も66円を維持する方針です。
配当性向は30%以上をベースに安定配当を続けます。

03 創業150周年を迎え、次世代の成長に向けて

- ・ヘルスケア領域（健康寿命延伸を目指す）
北米R&Dセンターによる北米市場の開拓
- ・インダストリー領域（保有技術の水平展開で事業拡大）
半導体市場へ展開
- ・新事業・将来事業の創出
ストロンチウム光格子時計が変える世界

続いて、次世代の成長への取り組みです。

1875年に創業してから2025年3月31日で満150歳



今後も、ステークホルダーの要望に応える“共有価値の創造”を通じてプラネタリーヘルスを追求してまいります



初代 島津源蔵

【創業当時の
カタログ巻末の言葉】
「御好次第何品ニテモ
製造仕候也」
ご希望に応じて
どんな品物でも
製造いたします



二代 島津源蔵

【二代 島津源蔵の
言葉】
学問を教えられたら
その応用を考えなくては
ならない、
死に学問ではだめだ



社是：科学技術で社会に貢献する



成長への布石を記載
領域名
取組事例
内は紹介事例

ヘルスケア領域

北米R&Dセンター強化
臨床MSソリューションセンター強化

人の命と健康への貢献

グリーン領域

地球温暖化対策への取組
環境規制市場への取組

地球の健康への貢献

産業の発展と安心・安全な社会への貢献

マテリアル領域

バイオものづくり

インダストリー領域

半導体市場展開

新事業・将来事業の創出

ストロンチウム光格子時計が変える世界

当社は今年で150周年を迎えました。今後もステークホルダーの要望に応える「共有価値の創造」を通じてプラネタリーヘルスを追求してまいります。

当社は「科学技術で社会に貢献する」を社是に掲げ、社会課題やお客様課題の解決に力を注いできました。

今後もヘルスケア、グリーン、マテリアル、インダストリーの四領域で事業を展開し、人と地球の健康、そして産業発展と安全・安心な社会の実現に貢献していきます。

成長への布石：ヘルスケア領域 ～北米R&Dセンター強化～



- 当社の強み：
お客様と共に新たな価値を創造する開発力



- 北米の製薬、臨床市場のお客様との共同開発強化
 - ✓ ポストンおよびサンフランシスコエリアに拠点を設立
 - ✓ 大手製薬・CDMO・受託分析企業と共同で課題解決

北米R&Dセンター

- 2035年までにR&Dセンター開発品で\$500M以上の売上寄与を目指す

メリーランド本部 (コロンビア, MD)

- 機械設計、ソフト開発等開発のグローバル連携拠点

東海岸拠点(ボストン近郊, MA)

- アカデミアや製薬研究開発部門
バイオエンジニアリング企業 が多数集積
- 大学研究者と新規MS技術の研究開発推進

西海岸拠点(サンフランシスコ近郊, CA)

- 製薬企業の開発や製造拠点、バイオテックカンパニー
ラボオートメーションの関連企業 が多数集積
- 企業研究者、大学と新規技術の研究開発推進

製薬/臨床関連企業など



アジャイル開発



ボストンラボ

顧客拠点との密接な連動に向けて市街中心部に「ボストンラボ」を開所

◆ 現在進行しているテーマ数

現在 **18**件 (ほぼ製薬市場向け)
既存市場拡大：7件
新規市場開拓：11件

◆ 公開できる主な内容

- ・ニーズに基づいたLCMSの改良
核酸医薬品に特化したLCMSの開発
ハイスループットメタボミクス向けMS開発
- ・多検体処理用途のQXシステム改良



Nexera QX Multiplex System

- ・核酸医薬品向けアプリケーション開発

ヘルスケア領域では、北米R&Dセンターを強化し、地元企業と共同開発を推進しています。ボストン、サンフランシスコに拠点を置き、2035年までに500ミリオンドル以上の売上寄与を目指します。

成長への布石：インダストリー領域 ～保有技術を新たに半導体市場へ展開～

150
YEARS
ANNIVERSARY

■当社の強み：
TMPビジネスで築いた顧客との信頼関係
世界に広がるサービス体制



■分析計測製品の半導体市場への展開
✓ 医薬品業界向け超純水分析装置を展開
✓ 食品・ガス分析向けの質量分析システムの展開

- 半導体製造前工程で使用される超純水に不純物が含まれると、ウェハー表面に欠陥や製品の性能低下の原因
- 半導体製造において、Airborne Molecular Contaminants(AMC)は製品の品質や歩留まりへの影響大
- 共に当社事業・技術との親和性が高い分野で、数年内に事業規模30億円へ

- 水分析
- 半導体製造前工程の約30%が超純水を使用した洗浄工程
 - 超純水の品質管理は製造プロセスの精度維持に不可欠
 - 超純水の効率的な再利用(回収水)
 - PFAS分析を含めた排水管理などで環境負荷低減

超純水のモニタリング



純水用オンライン全有機炭素計

医薬品業界で製薬用水の測定、洗浄バリデーション
医薬品開発の現場で実績あり

環境負荷低減



PFAS分析
液体クロマトグラフ質量分析システム

排水管理用
オンライン用水質分析計

AMC分析

- 確実な定性・定量モニタリングで製造環境において微細な汚染物質AMCの適切な管理は需要
- 揮発性有機化合物(VOC)などは、ウェハー表面への付着や光学装置の汚染を引き起こし、製造プロセスの精度を低下

揮発性有機化合物(VOC)などモニタリング



ガスクロマトグラフ質量分析システム
GCMS-QP2050

エンジニアリング機能強化に向けて他社との協業も視野に入れる

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2025年3月期通期決算説明会

23

インダストリー領域では、世界規模で展開するターボ分子ポンプのビジネスで築いた顧客との信頼関係をもとに、分析計測装置を半導体市場中心に展開しようとしています。
超純水分析装置を使った水処理やPFAS対応、ガス分析の分野にも展開を拡大しており、今後数年でさらなる成長を目指します。

成長への布石：新事業・将来事業の創出 ～ストロンチウム光格子時計が変える世界～

150
YEARS
ANNIVERSARY

- 従来のセシウム原子時計に対して100倍以上の精度向上を実現した世界初の製品
ストロンチウム光格子時計「Aether clock OC 020」(100億年に1秒の誤差)
- 高精度な時間・周波数計測のリファレンスとして世界を変える
- 希望販売価格：5億円～(システム構成により変動) 販売目標：国内外で3年間で10台



用途

時間標準用途 (2030年に秒の再定義検討) 時刻維持のための光周波数基準として セシウム原子時計を置き換え

- ・ストロンチウム光格子時計：100億年に1秒の誤差
- ・セシウム原子時計：3000万年に1秒の誤差

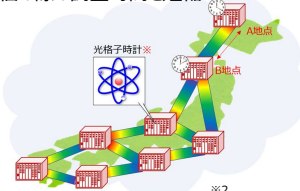


NICTの日本標準時システム(セシウム原子時計)

※1: <https://rri.nict.go.jp/labo/sts.html>

通信用途 次世代通信のための基準クロック

- ・次世代の大容量高速通信に寄与
- ・基地局間の時刻の高精度同期を実現
- ・通信の際の調整時間を短縮

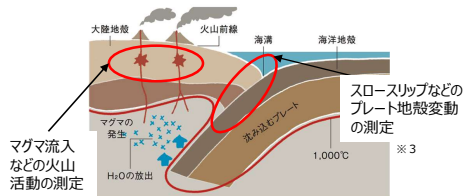


時間同期がGNSS基準(10^{-14} 程度)から光格子時計基準(10^{-18})になれば、調整時間が短縮

※2: https://www.rd.ntt/communication_device/0004.html

測位・測地、防災用途：ジオポテンシャル測定 重力による時間遅れ効果を利用

- ・標高が低いところ、重力が強いところ
⇒時間がゆっくり進む
- ・時間測定で標高差がわかる
- ・光格子時計の精度 10^{-18} は1cmの高低差に相当



※3: <https://funq.jp/peaks/article/612172/>

ストロンチウム光格子時計「Aether clock OC 020」を世界初として発売しました。従来のセシウム原子時計比で100倍～1,000倍以上の精度を持ち、標準時間の再定義や通信用基準クロック、高低差計測等さまざまな用途が期待されています。

以上、当社の現状と今後の展望についてご説明しました。
引き続き、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

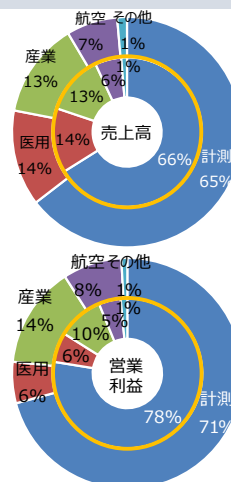
補足資料

セグメント別損益



- 売上高は、計測、産業、航空が過去最高。 医用も増加
- 営業利益は、産業、航空が大きく増益となり、過去最高を更新して全社を牽引
- 売上高構成比は計測65%、医用13%、産業13%、航空7%

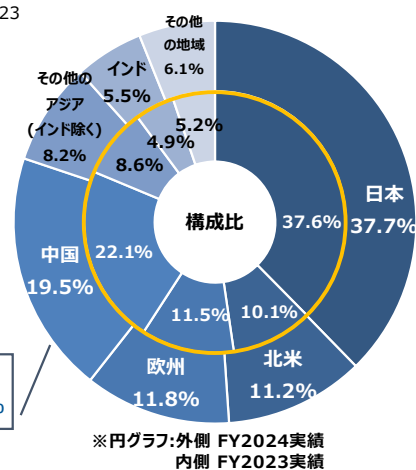
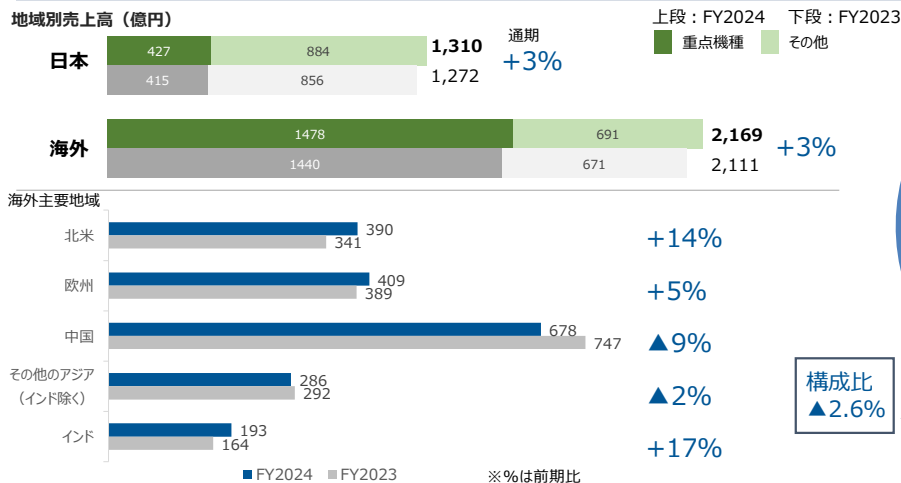
単位: 億円	売上高			営業利益			営業利益率	
	FY2024	前期比		FY2024	前期比		FY2024	前期比
		増減額	増減率		増減額	増減率		
計測機器	3,479	+97	+3%	521	▲54	▲9%	15.0%	▲2.0pt
医用機器	726	+3	+0%	43	▲5	▲11%	5.9%	▲0.7pt
産業機器	723	+62	+9%	105	+31	+42%	14.5%	+3.3pt
航空機器	387	+99	+35%	61	+26	+73%	15.7%	+3.5pt
その他	76	+11	+17%	6	▲4	▲40%	6.4%	▲5.0pt
調整額	-	-	-	▲18	▲3	-	-	-
合計	5,390	+272	+5%	717	▲10	▲1%	13.3%	▲0.9pt



計測機器 / 地域別売上高



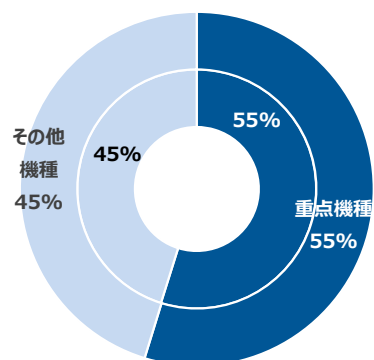
- 日本：1,310億円で+3%
- 海外：2,169億円で+3%。中国の売上減少を北米、インドを中心に他地域でカバー
海外売上高比率はほぼ横ばいの62.3%。中国比率は2.6pt低下し19.5%



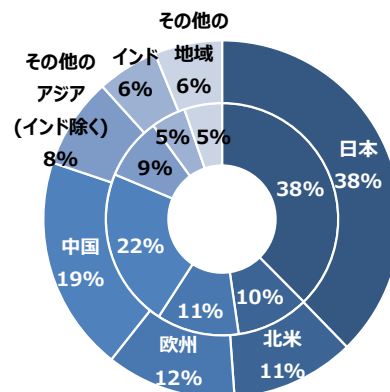
計測機器 / 各種売上高構成比率（通期）



機種別



地域別

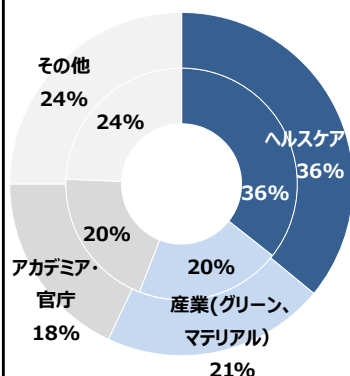


※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

計測機器 / 領域別売上高比率（通期）



市場別売上高構成比



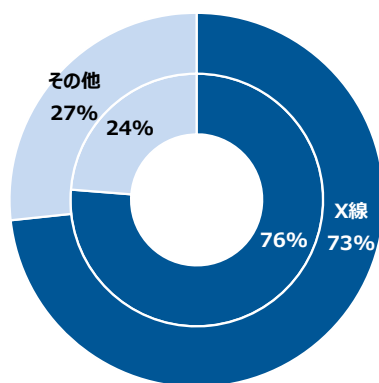
市場と主な業界	構成比		売上高 前期比	概況
	FY2023	FY2024		
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	36%	36%	+3%	・医薬は中国を除きグローバルで増加 ・臨床（医療機関）は、北米、欧州で増加
産業関連（グリーン、マテリアル） ●化学・素材 ●電機 ●自動車	20%	21%	+5%	・新素材開発向けに試験機が増加
大学・官公庁	20%	18%	▲6%	・北米は政権交代で予算執行鈍化 ・欧州は、大学・官需向け予算削減の動き

※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

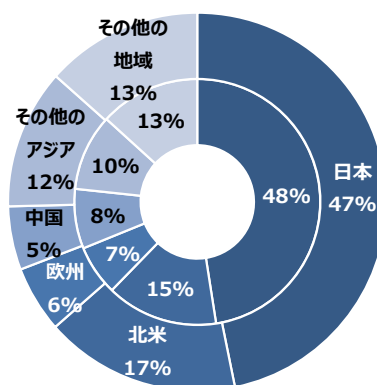
医用機器 / 各種売上高構成比率（通期）



機種別



地域別



※円グラフ外側はFY2024実績、内側はFY2023実績を示す

連結業績（1-3月）



	単位：億円	第4四半期(1月-3月)		前期比	
		FY2023	FY2024	増減額	増減率
業績	売上高	1,463	1,548	+85	+6%
	営業利益	220	247	+27	+12%
	営業利益率	15.0%	15.9%	+0.9pt	
	経常利益	240	229	▲11	▲5%
	親会社株主に帰属する当期純利益	180	176	▲4	▲2%
為替	平均為替レート：米ドル（円）	148.63	152.67	+4.04	+3%
	ユーロ（円）	161.37	160.53	▲0.84	▲1%
	研究開発費	61	83	+22	
	設備投資額	61	58	▲3	
	減価償却費	47	54	+7	

為替影響額

売上高：15億円

営業利益：5億円

セグメント別損益（1-3月）



単位:億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2023	FY2024	前期比		FY2023	FY2024	前期比		FY2023	FY2024	前期比
			増減額	増減率			増減額	増減率			増減
計測機器	960	1,000	+40	+4%	167	183	+15	+9%	17.4%	18.3%	+0.8pt
医用機器	216	223	+7	+3%	24	26	+2	+9%	11.1%	11.7%	+0.7pt
産業機器	188	189	+1	+1%	22	26	+4	+16%	11.9%	13.7%	+1.8pt
航空機器	82	107	+24	+30%	7	20	+13	+179%	8.7%	18.7%	+10.1pt
その他	17	29	+12	+71%	4	2	▲2	▲49%	15.3%	5.5%	▲9.8pt
調整額	-	-	-	-	▲4	▲10	▲5	-	-	-	-
合計	1,463	1,548	+85	+6%	220	247	+27	+12%	15.0%	15.9%	+0.9pt

計測機器 / 重点機種売上高前期比（1-3月）



- 重点機種
- LC：インドで医薬向け、北米で特定顧客向けが増加。中国で医薬・CRO向け減少
 MS：Zef社新規連結によるサービス売上増加。中国で政府支援策を取り込み増加。
 GC：日本・欧州・インドで新製品が化学向けに増加。

為替影響を含む	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
重点機種	+2%	+14%	+9%	+25%	+13%	+18%	+13%	+12%	+2%	+10%	+3%	▲2%	+2%	+8%	+3%
全体	+1%	+15%	+15%	+20%	+13%	+16%	+10%	+6%	+2%	+7%	+3%	▲1%	+4%	+4%	+3%

為替影響を除く	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
重点機種	▲9%	▲2%	▲5%	+14%	▲0%	+12%	+8%	+7%	+10%	+4%	▲6%	▲5%	▲0%	+6%	▲1%
全体	▲8%	+3%	+3%	+13%	+3%	+11%	+6%	+2%	+4%	+3%	▲5%	▲3%	+3%	+3%	▲0%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

計測機器 / 地域別売上高



単位 億円		FY 2023	FY 2024	前期比		概況（通期）
				増減額	増減率	
日本	通期	1,272	1,310	+38	+3%	・医薬向けで液体クロマトグラフや質量分析システムが増加 ・試験機が新素材開発向けで増加
	4Q	455	444	▲10	▲2%	
海外	通期	2,111	2,169	+58	+3%	・海外売上高比率は62%(前年比横ばい) ・北米は14%増、インドは17%増と大きく増加
	4Q	505	556	+51	+10%	
北米	通期	341	390	+49	+14%	・特定顧客向けに液体クロマトグラフや受託分析向けに質量分析システムが増加 ・マルチベンダーサービス会社（Zef社）の新規連結貢献
	4Q	101	112	+11	+11%	
欧州	通期	389	409	+20	+5%	・臨床検査向けで液体クロマトグラフや質量分析システムが増加
	4Q	99	105	+7	+7%	
中国	通期	747	678	▲70	▲9%	・市況悪化により液体クロマトグラフを中心に全般的に減少 ・大規模設備投資支援によりアカデミア、官需（税関）向け増加
	4Q	153	151	▲2	▲2%	
その他の アジア （インド除く）	通期	292	286	▲6	▲2%	・韓国で大口案件の反動で質量分析システムが減少 ・東南アジアで品質管理向けに試験機が増加
	4Q	65	69	+4	+6%	
インド	通期	164	193	+28	+17%	・医薬、受託分析向けで、液体クロマトグラフが増加 ・医薬、化学向けにガスクロマトグラフが増加
	4Q	42	52	+10	+24%	

計測機器 / 地域別売上高前期比（1-3月）



- 日本：前年同期の大型案件の反動でLC、MS、試験機が減少、GX関連向けにGCが増加
- 海外：インドは医薬・食品・化学向け増加。中国は期の後半にかけてMSを中心に回復傾向

為替影響を含む	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%
北米	▲2%	+12%	+20%	+22%	+13%	+1%	+4%	▲4%	+7%	+2%	+13%	+13%	+21%	+11%	+14%
欧州	+13%	▲1%	+18%	+28%	+14%	+20%	+27%	+21%	+10%	+19%	+8%	+4%	+3%	+7%	+5%
中国	▲14%	+36%	+6%	+49%	+17%	+31%	▲4%	+6%	▲21%	+1%	▲5%	▲19%	▲10%	▲2%	▲9%
その他のアジア	+37%	+25%	+24%	+18%	+25%	+15%	+20%	+20%	+11%	+17%	+4%	+3%	+1%	+13%	+5%
インド	+50%	+22%	+26%	+8%	+23%	+27%	+14%	+32%	+8%	+20%	+20%	+25%	+4%	+24%	+17%
為替影響を除く	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%
北米	▲16%	▲9%	▲3%	+6%	▲5%	▲4%	▲1%	▲8%	▲4%	▲4%	▲0%	+9%	+17%	+7%	+8%
欧州	+8%	▲8%	+7%	+19%	+6%	+11%	+13%	+10%	▲3%	+8%	▲4%	▲0%	+0%	+7%	+1%
中国	▲28%	+9%	▲14%	+31%	▲3%	+24%	▲9%	+2%	▲31%	▲5%	▲16%	▲21%	▲12%	▲4%	▲14%
その他のアジア	+20%	+4%	+4%	+6%	+8%	+10%	+15%	+15%	▲0%	+10%	▲7%	▲0%	▲1%	+12%	+1%
インド	+27%	▲2%	+2%	▲6%	+2%	+20%	+9%	+26%	▲4%	+12%	+6%	+20%	+0%	+21%	+11%

計測機器 / 領域別売上高前期比



	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
ヘルスケア	▲7%	+19%	+14%	+14%	+10%	+24%	+7%	▲4%	▲8%	+3%	+1%	▲4%	+5%	+11%	+3%
産業 (グリーン、マテリアル)	+6%	+17%	+12%	+19%	+14%	+15%	+8%	+6%	+5%	+8%	+7%	+2%	+2%	+8%	+5%
アカデミア・官庁	+20%	+17%	+8%	+30%	+19%	+20%	+25%	+23%	▲2%	+14%	▲2%	▲8%	▲8%	▲7%	▲6%

※為替影響を含む

医用機器 / 地域別売上高



単位 億円		FY2023	FY2024	前期比		通期概況
				増減額	増減率	
日本	通期	344	340	▲4	▲1%	・PET装置や放射線治療装置用動体追跡システムが増加 ・市況回復の遅れによりX線機種が減少
	4Q	108	112	+4	+3%	
海外	通期	379	386	+7	+2%	・海外売上高比率は53%(前年比+1pt)
	4Q	108	111	+3	+3%	
北米	通期	106	121	+15	+14%	・医療経済が回復しつつあり、一般撮影システムが新製品効果で増加 ・2024年4月に買収したCIS社の連結貢献
	4Q	32	45	+13	+40%	
欧州	通期	48	41	▲7	▲14%	・前年度大口案件の反動減や市況回復の遅れで一般撮影システムが減少
	4Q	11	6	▲5	▲44%	
中国	通期	57	39	▲17	▲31%	・市況悪化や腐敗防止強化による入札案件の遅れにより X線機種が減少
	4Q	13	10	▲3	▲22%	
その他の アジア	通期	73	87	+14	+19%	・東南アジア、インドで、血管撮影システムが増加
	4Q	21	24	+3	+16%	

医用機器 / 地域別売上高前期比（1-3月）



- 日本：市況回復遅れの影響を受けX線機種は減少。放射線治療装置用動体追跡システムが増加
- 海外：北米で新製品効果により増加。欧州・中国は市況回復遅れにより大幅減

為替影響を含む	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%	▲5%	+3%	▲1%
北米	+4%	+52%	+21%	+28%	+26%	▲18%	+11%	▲2%	+0%	▲1%	+37%	▲8%	▲6%	+40%	+14%
欧州	+5%	+61%	+2%	+33%	+22%	+16%	▲7%	+41%	+0%	+12%	+11%	▲30%	+3%	▲44%	▲14%
中国	+12%	▲12%	+5%	+23%	+6%	+24%	+38%	+7%	▲5%	+15%	▲36%	▲29%	▲36%	▲22%	▲31%
その他のアジア	+10%	+16%	+7%	+19%	+13%	+20%	▲28%	+10%	+27%	+3%	+15%	+47%	+1%	+16%	+19%

為替影響を除く	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%	▲1%	▲3%	▲5%	+3%	▲1%
北米	▲12%	+22%	▲3%	+11%	+5%	▲23%	+6%	▲6%	▲10%	▲7%	+21%	▲12%	▲8%	+35%	+8%
欧州	+0%	+50%	▲8%	+22%	+13%	+7%	▲18%	+28%	▲11%	+1%	▲1%	▲32%	▲1%	▲42%	▲17%
中国	▲6%	▲30%	▲16%	+7%	▲12%	+17%	+32%	+3%	▲17%	+8%	▲43%	▲32%	▲37%	▲24%	▲34%
その他のアジア	▲2%	▲4%	▲11%	+7%	▲3%	+14%	▲31%	+6%	+16%	▲2%	+5%	+41%	▲0%	+13%	+14%

産業機器 / 機種別売上高前期比（1-3月）



- **TMP** : 半導体製造装置向けが継続して増加
- **油圧** : 欧米で産業車両向けが軟調に推移
- **その他機種** : 中国・台湾・韓国でセラミック製造向け工業炉が減少

為替影響を含む	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
TMP	+20%	+22%	+9%	+1%	+12%	▲3%	+0%	▲0%	+15%	+3%	+27%	+7%	+10%	+12%	+14%
油圧	▲1%	+1%	+3%	+10%	+3%	+10%	+8%	▲4%	+1%	+3%	▲4%	▲4%	▲2%	▲1%	▲3%
その他	+17%	+12%	+11%	+24%	+16%	▲2%	+2%	+10%	+11%	+6%	+29%	+42%	+7%	▲16%	+12%

為替影響を除く	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
TMP	+11%	+11%	▲1%	▲6%	+3%	▲7%	▲4%	▲4%	+6%	▲2%	+17%	+5%	+9%	+11%	+10%
油圧	▲6%	▲4%	▲2%	+7%	▲1%	+9%	+7%	▲6%	▲2%	+2%	▲7%	▲5%	▲3%	▲1%	▲4%
その他	+7%	+1%	+2%	+17%	+7%	▲4%	+1%	+8%	+6%	+3%	+22%	+40%	+5%	▲16%	+10%

※FY2024Q1より、従来「航空機器」に含まれていた海洋関連機器の業績を、「産業機器」へ移管。
FY2024およびFY2023の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた上で、FY2024/FY2023の前期比較においては、前年の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較。

リカーリング比率（1-3月）



- 計測 : 日本・北米・欧州で医薬向け、欧州で臨床向けメンテナンス・サービスが増加
- 医用 : 北米でCIS社買収によりメンテナンス・サービスが増加
- TMP : 日本・中国・台湾・韓国で顧客カバー率向上により増加

計測	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
リカーリング売上高 前年同期比	▲6%	+5%	+21%	+11%	+10%	+10%	+3%	▲4%	▲2%	+1%	+0%	+4%	+10%	+7%	+6%
リカーリング比率	39%	36%	40%	33%	37%	39%	35%	37%	34%	36%	41%	38%	40%	35%	38%

医用	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
リカーリング売上高 前年同期比	▲2%	+3%	+0%	+3%	+3%	▲3%	▲7%	+1%	+0%	▲2%	▲1%	+0%	▲0%	+4%	+1%
リカーリング比率	36%	32%	39%	30%	34%	42%	34%	37%	33%	36%	41%	36%	40%	34%	37%

TMP	FY2022					FY2023					FY2024				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
リカーリング売上高 前年同期比	▲1%	▲6%	+4%	▲17%	▲4%	▲9%	▲8%	+10%	+36%	+6%	+46%	+50%	+34%	+28%	+38%
リカーリング比率	15%	14%	16%	13%	15%	15%	14%	18%	17%	16%	19%	19%	22%	19%	20%

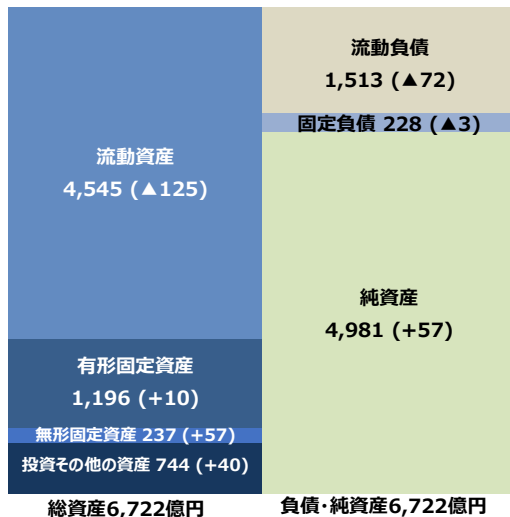
※為替影響を除く

連結財政状態（連結貸借対照表）



- 2025年3月末総資産 6,722億円（2024年3月末から▲18億円）
- 自己資本比率は74.1%（前期比末+1.0pt）

（億円）
増減は2024年
3月末対比



資産

流動資産 ▲125億円

- 現金 ▲219億円
- 売上債権 +43億円

無形固定資産 +57億円

- のれん増加 +26億円（Zef社新規連結など）
- その他無形固定資産 +32億円（Zef社新規連結で増加）

負債・純資産

流動負債 ▲72億円

- 買入債務 ▲48億円（買入債務の支払による減）
- 契約負債 ▲40億円

純資産 +57億円

- 利益剰余金 +353億円
- 自己株式取得 ▲250億円

自己資本比率 74.1% (+1.0pt)